



子ども大学学生新聞

第24号
子ども大学
かわごえ新聞部

好きなことを大事にしよう

玄田先生「働くというけど」を考える授業

七月二五日、尚美学園大学南オーデイトリウムで、東京大学社会学研究所・玄田有史教授の「働くということ」という授業がありました。出席者は四年生五五人、五年生三七人、六年生二一人の計一三三人。保護者は八八人、きょうだいは一五人でした。



「二トを知っている人？」という一
言で始
まりま
した。
二ト
とは働
かない
人とい
う意味
だそう
です。
この言
葉は先
生が広
めたと

言ったら、学生たちは「えー」「うそでしよ」などと言っていました。

つぎに先生は「みんなが将来やりたいことを言葉にするといい。それを漢字一文字で書いてください」と、おっしゃいました。みんなは、考えた漢字を前の黒板に書きました。

先生は「面白い仕事は苦しいけれど楽しい仕事です。苦しいけれど一生懸命やっていると、ありがたい、助かるなどと言われると、やっているとよかったと思うでしょう。それがいい仕事です」と言われました。

(小磯彪流記者 川越一小6年)

野球少年が先生職へ

二時間目の初めに、玄田先生のご存じの二トのお兄さんについて話されました。このお兄さんは、高校から大学に進学せず、仕事にもつかなかったそうです。しかし、このままではいけないと思ったお兄さんは、二トを支援する所へ行きました。そこで話を聞いてくれたお姉さんに、「何か好きなことはある？」と聞

かれ、「無い」と答えると、続けて「昔好きだったことはある？」と聞かれたそうです。

そこでお兄さんは「野球」と答えました。将来の夢はプロ野球の選手でしたが、なれませんでした。「野球がどうして好きになったのか覚えてる？」と、お姉さんに聞かれたお兄さんは、「昔、野球の試合を見に行つて、野球が好きになった」と答えました。その答えにお姉さんは、「こう言つたそうです。「野球場の芝生は、誰が手入れしているのかな？」」

その言葉をきつかけに、二トのお兄さんは芝生職人になりました。

玄田先生も子どものころ野球が好きで、特に野球の研究が好きだったそうです。その研究の心を持ち続けていたので、いま大学で研究者になっていると話されました。

最後に先生は、好きなことを大事にして、その気持ちをあきらめずに持ち続けて、そこからいろいろな可能性を広げていき、夢を広げていけば、夢は叶うと話されました。(熱田悠記者 大塚小5年)

☆玄田先生にインタビュー

Q 子どものころ好きだった学科は何ですか。

A 体育。

Q 子どものころの趣味は何ですか。

A お笑いが好きで、テレビをよく見ていました。

Q もし、ちがう仕事をするなら何をしますか。

A 町おこし。やっている人たちが楽しそうだし、喜んでくれる人が多いから。

Q 先生の好きな文字は何ですか。
A 悠。ゆつたりしているという意味の所が好きです。

(飯野聡真記者 大塚小5年、中島涼花記者 牛子小5年)

☆学生の授業感想

◇高階小6年・岡田蒼未さん「将来、人々を笑顔にできるようにになりたいです。自分の気持ちを漢字一文字で表すのはむづかかった」

(高山夏葵記者 西武文理小6年)

◇月越小5年・藤井純也君「仕事は苦しいこともあるけれど、楽しいこともある。今回の授業で仕事の大切さを学びました」

(今牧優那記者 西武文理小5年)

◇大塚小4年・平山直人君「今日の授業で、夢がかなわなくても、他の同じ種類の仕事につけることを発見しました」

(佐野太一記者 高階小4年)

◇中央小4年・大石梨楓さん「一つの好きなことから、いろんなことを生み出せることがいいと思った」

(石井結衣記者 霞ヶ関南小5年)

◇名細小4年・澤田花菜さん「二トという言葉を初めて知った。内容が分かり面白かったです」

(中島瑞木記者 名細小6年)

◇上戸小4年・森島瑠君「夢を持つことが大切だと思いました。人にはそれぞれいろいろな夢があるので、みんなの夢が叶ったらいいなと思いました」

(堀越萌加記者 上戸小4年)

◇月越小5年・松下利久君「漢字一文字で気持ちが表現できることや、一つの職業からいろいろな職業につながることを、

「ものづくり」を楽しむ

高校生が先生の特別授業

高校生が先生になる特別授業「ものづくり教室」が八月二二日、川越工業高校でありました。参加した学生は延べ九〇人。

はじめに食堂で開講式があり、清水雅己校長先生の開会の言葉のあと、学生代表の土田莉子さん(山田小6年)が「高校生のお兄さんお姉さん、いろいろ教えててください。よろしくお願いします」とあいさつしました。そのあと七つの教室に分かれて「ものづくり」が

おもしろかったです

(篠崎仙太郎記者 中央小5年)

☆記者の授業感想

◇奈村晴冬記者 高階小4年「漢字一字に自分の夢をまとめることなんて考えたこともなかったです。みんなちがう夢を一字で表していて、すごい数でした。ぼくは夢を大切にしたいので、その文字と同じような仕事をしたと思います」

◇関根英瑠麻記者 古谷小5年「授業を受けて心に残ったことは、これまで好きだったことを広げることです。そして自分にあつた仕事を見つける方法が、言葉にしたり漢字一字でもいいことです。先生の話聞いて、ぼくの知らない仕事があつた種類あるのか気になりました」



蔵のまちペン立てをつくる学生

ありました。

☆デザイン科「ステンシルによるエコバッグ製作」

かたを布(バッグ)にあて、絵具をつけて布にもようをつけました。布に色をつけるのが楽しく、もっと高度な技術を知りたいです。

(品川遥紀記者 高階西小6年)
☆化学科①「クリアキャンドル作り」

パラフィンワックス、ゼリーワックスをボウルを回しながら冷やすのが大変でした。(篠崎仙太郎記者 中央小5年)

・高校生に質問

Q なぜ、かき氷のキャンドルを作ろうと思ったのですか。

A 今は夏なのでそう思いました。それと、氷とキャンドルの「冷える→固まる」「温める→柔らかくなる」という性質を知ってもらいたいと思ったからです。(増田夢実記者 名細小6年)

☆化学科②「化学実験」

まず、酢酸にエタノールを混ぜ、これ

に濃硫酸を加えて様子を観察しました。

それを試験管に入れて振りながら八〇度のお湯で五分間加熱し、それを塩化コバルト紙に数滴たらして観察しました。最後に、カルボン酸とアルコールと濃硫酸を混合して加熱し、においや様子を観察しました。いろいろな実験ができて楽しかったです。フルーツのにおいなどがして、とてもおもしろかったです。

(中島瑞木記者 名細小6年)

・ぼくは化学実験をやったことがなかったけれど、やってみると、混ぜ合わせるだけで熱くなったり、においが変わったりして、おどろきました。材料の名前がかつよくて、こうふんしました。授業のあとで高校生にインタビューしました。

Q 将来の夢はなんですか。

A 薬をつくる人です。そして、たくさん研究したいです。

(飯野聡真記者 大塚小5年)

☆化学科③「七宝焼」

一人に二つずつ配られた丸い形をした鉄に、自分で好きな色の釉薬を、薬さじで少しずつのせ、高校生に焼いてもらいました。それをやすりで形を整え、わくにはめ、キーホルダーにしました。均等に塗れたので、きれいに出来上がり、よかったです。

(中島瑞木記者 名細小6年)

・つくり終わって焼いてもらっているとき、じょうずにできているか心配でしたが、焼き上がったのを見て、じょうずにできていました。はじめてでも、きれいにできてよかったです。今は机の上にかざってあります。

(奈村晴冬記者 高階小4年)

☆建築科「蔵のまちペン立て」

・ストレッチボードを白い紙ではさんだ板を外かべ、屋根、まど、えんぴつ立て、メモ帳を入れるひきだしのじゅんに組み立てて、それを組み合わせます。しあげに、くらの町らしく屋根にかんばんをはりつけました。高校生たちがやさしく教えてくれたので、うまくできました。本当にくらの町のようにできて、すごいと思います。また、建築科もおもしろいと思いました。

(堀越萌加記者 上戸小4年)

☆機械科「ネームプレートづくり」

・はじめに6cm×3cmの板をもらいました。穴あけドリルで北斗七星の形に穴をあけ、ストラップをつけて、ピカールでみがきました。ピカールで金ぞく板をみがいて、とてもつるつるになり、たのしかったです。

(佐野太一記者 高階小4年)

☆電気科「電子オルゴール&ペーパーラフト」

・クリスマスソングを三曲入れました。そのあと、LEDライトをつけました。ペーパーラフトでクリスマス家のつくり、中にオルゴールを入れました。たのしかったです。

(佐野太一記者 高階小4年)

・高校三年生の先生に聞きました。

Q 将来何になりたいですか。

A 日立のエレベーターのメンテナンスの仕事をしたいです。これから試験を受けます。

Q なぜ、その仕事をしたのですか。

A 学校で就職の求人票を見て、いいなあと考えたからです。

(土田莉子記者 山田小6年)